

産前産後ケアの充実と 切れ目のない子育て支援を

産後ケアの充実について

産後ケアの利用者が希望する施設の利用について。

保健福祉部長 保健師が把握した母親の身体状況や育児不安、育児手技、授乳、休息などの状況を踏まえて、利用者の希望に沿うよう、施設の予約調整を行っている。

利用者目線に合わせた改善について。

保健福祉部長 現在、申

請書の提出のほか、訪問や電話で育児状況や母親の育児疲れなどを確認して、利用決定をしている。

今後、ホームページの活用やオンライン申請を含め、利用者がいつでも申請しやすくなるよう改善していく。



産前産後の切れ目のない子育て支援について。

市長 結城市子ども家庭支援センターを設置し、妊産婦、子育て世代、全

ての子どもへの相談支援に努めている。今後も、安心して子育てできる環境づくりに取り組んでいく。



水泳教育の充実について

民間スイミングスクールを活用した効果について。

教育部長 専門の指導員の指導による児童生徒の泳力強化や学校プール施設の維持管理経費の削減、施設管理に係る業務負担軽減等が挙げられる。

今後、民間委託の対象校を広げる考えについて。



関 晴美
(せき はるみ)



録画映像
はこちら



教育部長 委託によるメリットや効果、プール施設の老朽化等を踏まえ拡充の方向で検討しているが、課題もあるため、改修費用と委託費用とを比較・検討した上で、各学校の実情に合わせ、総合的に判断していく。

